

二〇一七年九月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

人が生まれたときには、実に口の中には斧が生じている。

ぐしや

愚者は悪口を言つて、その斧によつて自分を斬り割くのである。

『スタタニパータ』

「口の中には斧が生じている」というのは、私たちが普段使っている言葉のことを指しています。人の悪口を言うことは、相手を傷つけるだけでなく、それがめぐり巡つてさまざまな形で自分に跳ね返ってくるものです。

そんな私たちが何気なく使っている言葉ですが、実は脳や体にさまざまな影響を及ぼすようです。脳は主語を理解できない性質を持ち、悪口を言えば自分が悪口を言われたときと同じ状態になります。つまり、自分自身に悪口を言っていると判断し、自分も傷ついていることになるのです。ですから、自分が発する言葉には、自分を斬り割くほどの影響力があるといつても過言ではありません。悪口を言うときは、心もマイナスの状態になるのですから、意識して言わないように心がけたいものです。みなさんも、普段どんな言葉を発しているのか、振り返ってみてはどうでしょうか。

今月の聖語

カニトモ

とも同朋にもねんぐろににころのおはしましあはばそ

まじつしき

『末灯鈔』

今月の聖語は親鸞聖人の言葉ですが、親鸞聖人は念仏の教えを共に歩む人たちを「御同朋（おんどうぼう）」と呼ばれました。そうした人たちにも大切に思う心を持ち合う。ねんぐろは「懇ろ」と書き、心がこもっている様子を意味しますが、もとは「根も凝（こ）ろ」という言葉で、地中にある複数の根がからみ合っているような状態のことを指します。クラスで考えれば、多くの友人たちがいて、一人一人が根のように見えないところできつながら合っているのではないのでしょうか。

今月は体育祭や文化祭といった大きな行事があり、各クラスで準備を進めていると思います。からみ合う根のように結束力を強め、互いに協力し助け合いながら取り組んでほしいものです。